



C2021-05 惜しげもなく

[今月の聖書]

詩篇 (112:6-9)

112:6 正しい人は決して動かされることなく、とこしえに覚えられる。 112:7 彼は悪いおとずれを恐れず、その心は主に信頼してゆるがない。 112:8 その心は落ち着いて恐れることなく、ついにそのあだについての願いを見る。 112:9 彼は惜しげなく施し、貧しい者に与えた。その義はとこしえに、うせることはない。その角は誉を得てあげられる。

箴言 (11:24)

11:24 施し散らして、なお富を増す人があり、与えるべきものを惜しんで、かえって貧しくなる者がある。

ハバクク (3:17,18)

3:17 いちじくの木は花咲かず、ぶどうの木は実らず、オリーブの木の産はむなしくなり、田畑は食物を生ぜず、おりには羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。 3:18 しかし、わたしは主によって楽しみ、わが救の神によって喜ぶ。

Ⅱコリント (9:7,11,13,14)

9:7 各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。 9:11 こうして、あなたがたはすべてのことに豊かになって、惜しみなく施し、その施しはわたしたちの手によって行われ、神に感謝するに至るのである。

9:13 すなわち、この援助を行った結果として、あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であることや、彼らにも、すべての人にも、惜しみなく施しをしていることがわかってきて、彼らは神に栄光を帰し、9:14 そして、あなたがたに賜わったきわめて豊かな神の恵みのゆえに、あなたがたを慕い、あなたがたのために祈るのである。

お元気で過ごしてでしょうか。今月は「惜しげもなく」というテーマで神の祝福を受ける法則について学びましょう。これまで詩篇を学んで参りましたが、112 篇はハガイとゼカリヤによって書かれたと言われていています。ですからこれまでのダビデ詩篇に比べてずっと後の作品で、クラークはBC 535 年頃と言っています。私は、「彼は惜しげなく施し、貧しいものに与えた。」(112: 9)というみ言葉に心が捉えられました。神を恐れ、正しく生きる人の祝福と、悪しき物の破滅が対照的に描かれています。

そのような人はまた不動の信仰を持っているのです。「正しい人は決して動かされることなく、永久に覚えられる。彼は悪いおとずれを恐れず、その心は主に信頼して揺るがない」(詩篇 112: 6,7)。どんなに悪いことに遭遇しても、心が落ち着いて不安に襲われないと言うのです。マルティン・ルターは「キリストによって与えられる内なる神の力なくして不動の信仰は不可能である」と言っています。ある意味で私たちはコロナ禍にあって、毎日不安と恐れの中にあります。そして次第に気持ちが萎縮し消極的になっているかもしれません。しかし今持たねばならないのは「不動の信仰」です。最大の神の祝福は心の絶対的平安と豊かな愛です。「惜しみなく」と訳されている言葉はヘブライ語でパザール(pazar)で撒き散らす(scatter)と言う意味です。人に良い知らせを伝え、困った人には積極的に支援し、見返りを求めないで与えていく人。そのような人は信頼され、結局豊かになっていくのです。「少ししかまかないものは、少ししか刈り取らず、豊かにまくものは、豊かに刈り取ることになる」(第二コリント 9: 6)は伝道者パウロが人に対する奉仕の心構えを自然界の法則で語ったものです。それこそイエスキリストの十字架の福音なのです。

この祝福の秘訣があなたの人生を豊かにしますようにお祈りいたします。

(お知らせ)

現下の新型コロナ感染拡大の傾向のため、自由が丘チャペルにおける水曜礼拝外、地区集会もしばらくの間休会いたします。引き続きお祈りくださいますようお願いいたします。テレフォンサービス YouTube などをご活用くだされば幸いです。

◆◆◆ C F I 会員投稿原稿 第 77 回 ◆◆◆

「み言葉が開けると光を放ち」

武田シマ子(栃木県)



先日は突然お電話して失礼いたしました。昨年の暮れにたまたま見つけたカセットテープを聴きました。誰からもらったかも知らず、ダビングされたカセットテープで目が開かれたのです。どこで録音されたかも知らず、あちらこちら尋ねました。またそれらしい先生方にもお伺いしました。しかし探し求めてついに小田先生に辿り着きました。直接お電話でお声を聞いて信じられないほどの喜びでした。それは2002年8月の「冬の備え」というお話でした。

冬とは何か、備えとは何か、心の備え、意識の備え、あれもこれもではなく、絞って神の目をもってみる。これから歩むべき道を示されました。「み言葉が開けると光を放って無学な者に知恵を与えてくれます」(詩篇 119: 130)。

道と真理と命を教えられ、眠っていた信仰に灯をともしられました。「起きよ、光を放て。あなたの上に光がのぼったから」(イザヤ 60: 1)。ただただ驚くばかりの恵みを受け感動いたしております。

クリスチャンとは備えをする人々と言うことができます。神の目をもって時代を見るのです。遠い未来を見る目を持つ人は、いかなる時にも驚くことはありません。主と共に歩いているのです。今は私の人生にとってどういう時なのかということを知らねばなりません。「怠け者は寒い時に耕さない。それ故刈り入れの時になって求めても何もない。」(箴言 20: 4)

「冬の備え」について先生は3つのことを語っています。それは試練の日のための準備です。

- ①今の時間を無駄にしないこと。
- ②今与えられている恵みを大事にすること。
- ③生きる目的を鮮明にすること。

そしてマタイによる福音書 24 章から、「世の終わりの前兆」について語っています。「また、戦争と戦争の噂を聞くであろう。注意していなさい、慌ててはいけません。それは起こらねばならないが、終わりではない。またあちこちに飢饉が起こり、また地震があるであろう。しかしこれらは産みの苦しみのはじめである」(マタイ 24: 6-8)。「しかし、最後まで耐え忍ぶものは救われる」(24: 13)。私たちは恐れることなくキリストによって耐え忍ぶことができるのです。

「蟻は力のない種類だが、その食料を夏のうちに備える」(箴言 30: 25)。

今こそみ言葉を蓄えなければならないことを示されました。歳はとりましたが、たとえバイオリンの弦が切れて、最後の1本になっても神をほめたたえる賛美を奏でていきたいと思えます。

イエス様が与えてくださった「冬の備え」はいかなる逆境にも立ち向かう勇気、いかなる困難にも驚かない賛美の力を与えてくださいました。それは滝のしぶきが光になって私に注がれているようです。